

学生のページ

第9回 マーサ大学医学研修報告

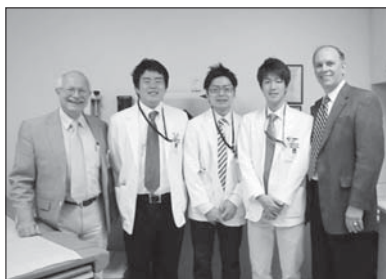
(期間：2011年3月6日～3月20日)

マーサ大学での医学研修

よしだ てるふみ つる としあき つちや ひろかず
吉田 明史、津留 俊昭、土屋 紘一
(医学部第6学年)

1週目はSavannahにあるMemorial Health University Medical Centerで、2週目は大学本部のあるMaconのThe Medical Center of Central Georgiaで、学内・学外のfamily medicine、一般外科、一般内科について実習しました。具体的な内容についてはイントラネット※を見ていただくことにして、ここでは強く印象に残ったことを書きます。

まず、行く先々で日本の提携校である金沢医科大学から来た僕たちのことを、皆が知っていることには驚きました。そして滞米途中に起こった震災については、様々な人から慰めの声を掛けられました。実習中はほとんどの時間、交替でホスト学生が付き添ってくれたのでとても心強く、1月に本学を訪れたVarunさんと



右からBina医学部長、吉田、津留、土屋とFamily Medicine Center医師

Chrisくんには移動や観光を含めとてもお世話になりました。

主な実習方法は、指導医に付いて廻るシャドーイングです。まず指導医の診

察を見学し、その後で学生はそこから考えられる疾患を述べ、先生からの質問に答えたり小講義を受けたりするのですが、なぜそう考えるのか、鑑別疾患は何か、治療はどうするのかなどといった先生からの質問の嵐が各学生に襲いかかります。とくに救急外来では、忙しい診察の合間を縫っての怒濤の質問攻めです。しかし学生からの質問に対して先生方は懇切丁寧に教えてくださり、応答の緊張が和らぎました。

この2週間の貴重な経験をこれからの勉強に生かしていきたいと思います。

※http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~kmucie/occs_report.html

第1回 マクデブルク大学医学研修報告

(期間：2011年3月6日～3月20日)

マクデブルク大学での医学研修

なかむら まみ か
中村 菜美花 (医学部第6学年)

3月6日から2週間、ドイツのザクセン州マクデブルク市にあるOtto-von-Guericke大学(通称マクデブルク大学)医学部で研修しました。医学部に入学し5学年で海外研修、しかもヨーロッパで受けることは私の10年来の夢でした。希望した整形外科と小児科でとても充実した日々を過ごすことができ、この機会を与えてくださった本学に感謝しております。

具体的には、整形外科では午前7時から病棟回診やフィルムカンファランス、1日4件の手術見学を1週間経験しました。手術では、多くの先生方の助手として、膝、股関節、手、肩、足関節、脊椎の代表的な疾患からヨーロッパに特有の症例まで幅広く学びました。一般小児科病棟では午前7時半から病棟回診やカンファランス、病棟実習(医学生と共に初診診察とICU実習)



新生児科にてドイツの医学生と。
中央が筆者

を3日間、新生児科では午前7時から新生児身体診察、病棟実習(医学生と共に新生児の全身管理と定期健診)を2日間経験しました。小児科、新生児科では、一日に数え切れないほど何度も患者さんとドクターが触れ合い、変化しやすい小児の全身状態の所見をとる姿が非常に印象的でした。私自身もそこに立ち会えた

ことで、言葉の壁を越え一生忘れることのできない患者さんやドクター、学生と出会うことができました。

この2週間を通して、医療というのは時に言語や文化の壁を越えて存在しうることを身を持って学ぶことができました。この経験を生かして視野を広く持ち、柔軟で人間味溢れる医師を志し、より一層精進していきたいと思っています。

学生のページ

第3回 バーモント大学春期医学研修報告

(期間：2011年3月13日～3月27日)

2011年交換留学体験記

みうら せいこ

三浦 聖子 (医学部第6学年)

2011年3月13日から2週間バーモント大学交換留学プログラムに参加させていただきました。3日間はクリニックにて家庭医研修、4日間は大学付属病院血液内科・腫瘍内科・外科・病理部・法医学にて研修し、今年度卒業生の夕食会と翌日のマッチングデイに参加しました。学外活動としてニューヨークのコロンビア大学付属病院循環器科・心臓移植病棟を見学し、在ニューヨーク総領事館の医務官を訪問しました。

家庭医研修を行ったバーモント州ウェルズリバーは野生の鹿にも遭遇する美しい田舎町です。クリニックでは、問診・診察・検査を行い指導医に報告すると、鑑別疾患を質問され共に再度診察するという流れです。経験した手技は、尿沈査鏡検・HbA1C測定・採血・筋肉注射・小児の診察・子宮頸部細胞診・直腸診・吸引



健康診断を受けるメキシコ人労働者、バーモント大学 student doctor の C. Mygatte さん (左端) と筆者 (前列右)

分娩等です。また、メキシコからの労働者6名にスペイン語で健康診断を行いました。ここまで医学生が参加できるという環境に驚きました。家庭医の魅力というのはこの3日間に凝縮されており、日本の研修医制度が目指しているところを感じ取れた気がします。

交換留学で本学に滞在したことのあるダニエル、カナヨ、ティムに再会でき、これまで国際交流センターのイベントに参加させていただいて本当に良かったと思い、感謝しています。これからも医学と共に英語やスペイン語も学び続け、挑戦していきたいと思っています。ありがとうございました。

第3回 テキサスA&M大学医学研修報告

(期間：2011年3月20日～4月3日)

テキサスA&M大学医学部での学外実習

いずみだ りょうこ

泉田 涼子 (医学部第6学年)

2011年3月20日から2週間、本学の提携校であるテキサスA&M大学で学外臨床実習を経験した。この医学部は米国一の規模を誇るシミュレーションセンターで有名だ。そのセンターを実際に見ること、米国の医療の現状に触れることが今回の海外留学の目的だった。第1週はSJRHC HospitalとScott & White Clinicにおいて、循環器内科(朝8時半～午後6時)、心臓血管外科(朝6時～午後5時)、家庭医学部門(朝7時半～午後4時)で研修した。第2週はSJRHC HospitalとそのPhysical Centerの小児科(朝7時～午後5時)、救急医学部門(朝8時15分～午後6時)、一般外科(朝7時～午後3時)で研修を行った。主な研修内容は、指導医と医学生に同行しての病棟回診と外来診察、ミニレクチャーの聴講、手術の見学、シミュレーションセンターで



循環器内科にて学生たちと筆者 (前列右端)

の実習などである。

手術や治療などで使われている薬剤に違いはあったが、医療の質という点では日本と大きな違いはなかったように思う。しかし現場で働き、学生の教育にあたる医療スタッフの数は多く、体制や患者の背景に大きな違いがあった。

2週間の海外実習で、自分自身のコミュニケーションと医学英語の学習法をより改善していこうと思ったこと、文献を吟味する際には日米の患者背景の違いを意識する必要があることなど、将来、医学留学をする際の準備として今回の海外実習は大変良い経験になった。